

越前岬

若城八千代

登場人物

お秋
お春
流れの宗太
観音の藤兵衛
お豊
お空
辰二
三次
お千代
宝二郎
女中

一景目

ここは旅ゆく人が行きかう峠道、茶店の前

もうすぐ空が赤く染まる

辰二・三次が財布をニヤニヤと眺めながら入り

三次…へへ、兄貴うまくいきましたね？

辰二…ああ、あの旅人間拔けな野郎だぜ。

だがそのおかげで飯にありつけるつてもんだ

三次…へい！何食いましょうか？ たんまり入ってるなら、
久しぶりに酒なんてどうです？

辰二…なんでい、まさかおめえ、この財布をあてにしているんじゃない
あるめえな？

三次…そりゃあもちろん！

辰二…何馬鹿な事言ってたんだ。いいか三次、おめえは三下、
ましてや、この財布を手に入れたのはこの俺、辰二様なんだ。
てめえはてめえで稼ぐんだな。

三次…そんなあ…

辰二…さて、どれどれー？

財布の中身を確認する辰二 のぞきこむ三次

三次…うわ、こいつあひでえや！

辰二…くそ！これじゃあ、うどん一杯だって食べやしねえ！

三次…せっかく茶店を見つけたっていうのに…

茶店に目をやる辰二と三次 唾を飲み込み鼻をひくつかせました。

三次…兄貴、こうなったらいつそ山賊の真似事でもしなけりや

親分の仇を討つ前に俺たちが飢え死にしちまいますぜ

辰二…違いねえや、…背に腹は代えられねえ！三次、この峠道を通る奴は片っ端から狙うんだ！もしかしたら、あいつも通るかもしれないねえ

三次…へい！ わかりやした！

辰二…よし、いくぞ！

辰二と三次、懐にある手ぬぐいで頬かむりをしてはける。

お空…どうもありがとうございますー…足元気をつけておくれよ

茶店からお空とお春の入り

お春…おばさん、お世話になりました。お茶もお団子もとっても美味しかったです。

お空…喜んでもらえてよかったよ、それにしてももう行っちゃうのかい？
今から行けば夜道になるんだし、もう少しゆっくりしておいきよ

お春…ありがとうございます。でも、いつも真っ暗だから夜道は慣れています。

お空…そうかもしれないけど、山賊や追剥だっているんだ。お春ちゃん
って言ったっけ？ あんたみたいな娘さんの一人旅…
あたしや心配で仕方ないよ。

お春…ありがとうございます。でも、少しでも先を急ぎたいんです。

お空…そうかい？ 気をつけるんだよ

お春…お世話になりました、ありがとうございます。

お春は杖を頼りにはける

お空…やれやれ、目の不自由な姿で人探しの旅なんて難儀なことだよ…
さてと、奥の片づけでもしてこようかね。

お空はける 入れ替わりに藤兵衛、お豊の入り

藤兵衛…お豊、大丈夫か？ 足は疲れちゃいねえか？

お豊…大丈夫ですよ。お前さんこそ、疲れたんじゃないやありませんか？
その茶店で休みます？

藤兵衛…俺は旅には慣れてるんだ心配いらねえよ。

それにどうせ休むなら、宿でゆっくりした方がいいだろう

お豊…そうですね。渡世人のお前さんは

いっだって喧嘩だ出入りだと留守にしがちで…

二人きりで過ごすことなんてありませんでしたから

藤兵衛…耳の痛いことを言ってくれるなよ。だからこうして

女房孝行してるんじゃないやねえか

お豊…ええ、ふふ。

藤兵衛…さあ、こっからは峠をくだるからな。気をつけなくちゃ
いけねえぞ？ほら

お豊…え？

藤兵衛…俺たちはもう若くねえんだ、ケガでもしたら大変だろ
手ひいてやるよ

お豊…まあ、お前さんたら…うふふ

藤兵衛とお豊 はける

お秋の声

お秋..ちよいと！お待ちよ！お待ちったら！

宗太 入り あとからお秋が追いかける

宗太..何だよさつきからうるせえな、俺に何か用か？

お秋..すつとぼけてんじゃないよ！返しておくれ

宗太..何の話だ？俺はあんたに何も借りちやいないぜ？

お秋..しらばつくれやがって、あんたとぶつかるまでは
確かにあったあたしの財布が、ぶつかつたあとから
無くなってるんだ。さ、悪ふざけはよして返しておくれ

宗太..だから知らねえって言ってんだろ！？

お秋..ああそうかい、これでも知らないってのかい！？

お秋、宗太の腕をひねりあげる

宗太..いてててて！！わかった、出す！出すよ！

お秋..さつきとお出しよ！

宗太..くそ、女のくせに何て力だ！

宗太、懐から財布を出す

宗太..ほらこれだろ

ひったくるお秋

お秋..盗んだ相手が悪かったね。さ、番屋に行こうじゃないか

宗太..待ってくれよ！財布は返したんだからいいだろ！？

お秋..何いってんだい、あんたみたいな巾着切りや護摩の灰を野放しにしてたら世の中のためにならないだろ？

宗太..そんな：たのむよ！そうだ、この茶店で酒おごるからさ？

酒じゃなくても飯だつて団子だつて好きなだけ食っていいから！
番屋だけは勘弁してくんな！

お秋..：あつそう、まあ、そこまで言うんだつたら、お酒奢ってもらおうかねえ

宗太..へへ、わかりやした！ちよいとお待ちを！おーい、ごめんよー

お空 入り

お空..はい、いらつしやいませ！

宗太..すまねえが、酒を5、6本もってきてくんない！

お空..わかりました。少々お待ちを

宗太..今きますんで待ってておくんなさいね！

お空..お待たせしました！どうぞ。

宗太..おう、すまねえな。さ、姐さんどうぞ！

二人は店の前の床几に腰をかける

お空..いいですねえ、夫婦旅ですか？

お酒を吹き出すお秋

お秋.. ちよいと待っておくれよ、あたしたちは夫婦なんかじゃないよ？

宗太.. そうそう、さつき知り合ったばかりの赤の他人なんですから！

お空.. またまたー、そんな事言っちゃって！わかった！

昼間はこうして街道じゃ赤の他人のふりをして…夜ともなれば
お部屋の中で、お前…あなた！どうしたお前、なあにあなた♡
とかなんとかやっちゃってるんでしょ？旅人さんもやりませぬ

お秋.. 何いつてんのさ、昼も夜もないの。ずーっと他人！

宗太.. そうだよ、あんまりからかわねえでくれねえか、

酒がのみづらくて仕方ねえよ。

お空.. すみません、峠の茶屋をしてるとどうにも暇で暇で…また、何か
あつたら呼んでください。失礼します。

お空 はける

お酒を注ぐ宗太、飲むお秋

お秋.. あー、おいしい。人に奢ってもらう酒ってのは格別だね

宗太.. へへ、そうですかい？あの、あつしもいただいても？

お秋.. 勝手にどうぞ？あんたの勘定なんだから。ただし、お酌はしないよ

宗太.. へへ、へい！

宗太も飲みだす

お秋.. ねえ、ところでさ。なんであんたスリなんかしてんのさ

まだ若いし、いくらだつて働く道はあるだろうに…

宗太.. おれだつて、好きで巾着切りやってるわけじゃありませんよ
これにはれっきとした事情があります…

お秋.. ふうん、泥棒の事情ってのは随分気になるね？

宗太.. そうですかい？ まあ、言えば恥になりやすが…

あ、いけね！

立ち上がり仁義を切る宗太

宗太.. おひけえなすつて！

お秋.. あー、仁義なんて結構だよ

宗太.. すいやせん。ええと…申し遅れやした、あつしは流れの宗太つてケチな野郎でございやす！

お秋.. 流れの宗太？流れてどつかにいつちまいそうだこと…

宗太.. へへ、足の向くまま、気の向くまま…あつしはこれといってやりたいことも見つからず、あちらこちらといろいろな宿場で旅をしてまわったんです。風来坊つて奴ですね！

お秋.. それで？

宗太.. ある土地にわらじを脱いだ際にその…好きな女ができましたね

お秋.. いいねえ。あたしそういう話好きだよ。それで？

宗太.. 穢れをしない優しい心の持ち主で、とつても可愛いんですよ。色に例えたら白！あつしはね、幼い頃に二親とは死に別れていて…家族つてもんに懂れがあつたんでしょうね…その娘の家族を思う姿に惚れ込んだじまつた…

お秋.. へえ、いいじゃないか。情が熱い女はいい女だよ。ましてや親兄弟を大事にするなら尚さらだね。

宗太.. へい、それでその娘にあつしの気持ちも伝えたんです！

そしたら向こうもおいらと同じ気持ちで…へへ
いやあ、酒がすすみますねえ！

お秋.. にやけてないで続きをお話よ

宗太.. すいやせん…お互い思い合っているなら夫婦になろうじゃねえかと意気込んでみたものの…今まで散々好きに生きて来た風来坊だ何の貯えもありやあしねえ、だからね？

おめえを女房にするため、一生懸命働いて、江戸で金を稼いでくる
必ず迎えに行くから待っててくんよ！
ってその土地をはなれたんです！

お秋.. 惚れた女のために、やる気を出したんだね

宗太.. へい！それが…二年くらい前になります

お秋.. うん、それで？

宗太.. 溜まったんですよ！まとまった金が。もちろん、まっとうに働いて
爪に火を点す思いで銭を貯めたんです…全てはその娘と
夫婦になりたい一心で…でもねえ

お秋.. どうしたんだい？

宗太.. いざその土地に戻ってみると、待っているはずの女はどこへやら…
どこを探してもいやしねえ。

お秋.. なんだあんた捨てられたのかい？

宗太.. まあ、早い話がそうですね。で、せっかく金もためたし、
気持ち切り替えてがんばろう！と思つた矢先…泊まった
旅籠で物取りにあい、有り金全てとられちまつて…

お秋.. あら…

宗太.. もう、あつしは真面目に働くのが嫌になつちまつて…
どうせなら、俺も他人から盗んで金を稼ぐ方がいいだろうって
そんな馬鹿な考えで今日まで暮らしてめいりやした。
馬鹿な男と笑っておくんささい。

お秋.. あははははは！

宗太.. ほんとに笑う事ねえでしょ！

お秋.. 冗談だよ、でも…宗太さんだっけ？あんたの事情は
よくわかるが、でも、盗みはいけないよ…嫌な思いをした
あんただつたらわかるだろ？ 捨てた女のことを見返すつもりで
頑張つたらいいじゃないか？

宗太.. …そうですね、へへ、許してもらつたばかりか、

ありがとう言葉まで、ありがとうございやす！
あの、姉さんの名前は？

お秋..あたしはお秋ってんだよ。

宗太..お秋姉さんか..姿もきれいだが、名前もいいですね！

お秋..なっ..何いってんだい、からかうんじゃないよ！

宗太..ところで、お秋の姉さんは女一人旅だなんて、
どこかへ物見遊山ですかい？

お秋..そうじゃないよ、ちよいと人を殺しちゃまってね。

宗太..へー。人を..人を殺した!？

お秋..ばか!声がでかいよ!

宗太..すいやせん、いや、だったらあつしよりも番屋には行きづらいん
じゃねえんですか？

お秋..あ、たしかに..

宗太..何やってんすか..でも、殺しなんて穏やかじゃねえやな
何でそんなことになっちゃったんです？

お秋..:..そうだね、あんたの話も聞いたんだ。退屈しのぎに
あたしの話も聞いてくれるかい？

宗太..へい!

お秋..あたしには妹がいてね、おとつあんもおつかさんも
死んじまって、あたしが親代わりに妹の面倒をみてきたんだ:
気が強くてがさつなあたしと違って、優しく人を和ませる
気性の娘で、姉妹仲もとても良かったんだよ:

宗太..へえ、いいですね!あつしは一人っ子なもんで、兄弟とか憧れます
でも、女二人じゃ何かと暮らしも大変だったんじゃないやねえんですか?

お秋..そうなんだよ、だから土地の親分さんが何かと、お世話を
してくれていたんだ:..あたしが漁に出て、妹が身の回りの世話を

したり…食べる物だって何の不自由も無かったよ。

宗太…なるほど、渡世人とは言え、親切な親分さんで良かったですね

お秋…亡くなったお父つつあんにお世話になったとか何とか…

あたしらの子供の頃のことだからさ、詳しいことは

わからなかったが生きていくためには、

その人の世話になる事が一番の幸せなんだって思ってた…

でも、ある時、そいつが妹を襲っているのを見ちまってね…

宗太…そんな…

お秋…その日だけじゃなく、いつもいつも、あたしに心配かけまいと

妹はずっと黙っていたんだ…その日はたまたま忘れ物をして

家に戻って知る事ができた…すぐさま、中に入り

やめてください、って頭を下げたんだよ…そしたらあの男…

親子そろって、邪魔をするのかって…

宗太…え？親子そろってって、どういうことですか？

お秋…襲われていたおつかさんをお父つつあんが助け、

そのまま両親とも、襲った相手に殺されていたんだ…

その時にわかったんだよ…いくら調べたって、下手人が見つかる

わけがないって…その土地で一番権限を持つてる男が下手人なら

どうにだって、もみ消す事はできるってね…

宗太…ひでえ話だ…

お秋…あたしや、頭にカアつと血が上つちまって…妹を助ける一念から

気が付いたらその親分の刀を奪って刺していた…

宗太…：

お秋…親の仇も討てたし、妹のことも守れた…でも、殺しは殺しだ。

妹に迷惑がかかっちゃいけないと、土地を売ったのがもう

3年前になるかね…。

宗太…なるほど…そんな事情があったんですね。

お秋…そ、親分をやられた若い衆からも役人からも追われて

毎日大変なんだよ。って、…ん？

宗太.. どうしました？

お秋.. ちよいと、もう酒ないじゃないか！あんた一人でほとんど飲んじまったのかい？

宗太.. すいやせん、つい…

お秋.. ついじゃないよ、まったくもう…いいからお勘定しておくれ

宗太.. へい、わかりやした！おーい、ごめんよー

お空.. 茶店から出て来る

お空.. はい、あ、旅人さん追加注文ですか？

宗太.. そうじゃねえんだ、お勘定お願いするよ

お空.. かしこまりました、お酒、お銚子が5本ですね。百五十文です

宗太.. 待ってなよ…

ごそごそと懐をさぐる宗太

宗太.. あの、お秋の姉さん…

お秋.. なんだい？

宗太.. ここの酒代出してもらえませんか？

お秋.. はあ？何いってんだい、ここはあんたが奢るっていったんだろ？

宗太.. いや、実はさつき二人組の男にぶつかつたときにどうやら

財布をすられたらしくて…そのあとに、手に入れた財布も

お秋姐さんに奪われて…

お秋.. 人聞きの悪い事言ってるんじゃないよ！これはあたしの財布だろ！

宗太.. そこを何とか頼みますよ

お秋.. ったく冗談じゃないよ、なんであたしが…

お空..あらあら、夫婦喧嘩ですか？

お秋..夫婦じゃない！赤の他人！

宗太..すいやせんお願いしやす！このままじゃ無銭飲食で、番屋に連れていかれちまいますよ！

お秋..はあ..百五十文でしたっけ？ はい、どうぞ

お空..ありがとうございます！ 夫婦旅楽しんできてくださいね

茶店の主人は店の中へ

お秋..だから夫婦じゃないってのに..宗太さん、あんた確実に三本は呑んだよね？

宗太..:..そう、ですネ。

お秋..だったらこれから先、あたしの言う願い事は3つは叶えてもらおうよ

宗太..へ？願いですか？そんなこと急にいわれても..

お秋..別に無理なことは頼みはしないさ。

宗太..なら良かった..

お秋..まず一つ、今後一切盗みはしないと誓っておくれ。

宗太..盗みをしねえ..へい、わかりやした。

お秋..うん、わかったんならいいや、じゃあね

お秋立ち去ろうとする

宗太..お秋姉さん！まだ2つ残ってるよ！？

お秋..ああ、今は思いつかないから..また縁があつて会えた時に残りの2つは考えるよ。それまで達者だね

お秋の去る

その後ろ姿を見送りながら宗太は見とれていたことに
気が付く

宗太…お秋さんか…強いだけじゃねえ、優しさもある良い女だ…
ふとしたしぐさがお春に似てらあ…決めた、
今日から俺はお秋さんを支えるんだ…待つておくんなせえ、
もしお秋さーん！お秋さーん！

追いかける宗太

二景目

人気がない峠道

お春..きやあああああ！

辰二..まさかこんなところでおめえに会うとはな！

お春..その声は龍神一家の辰二さん！？

辰二..そうよ、おい、てめえの姉貴はどうした？今どこにいる！？

お春..わかりません、私も姉さんをさがしているんです！

三次..だったら仕方ねえな、おい、俺たちは腹が減って仕方ねえんだ
有り金おいていきな！

お春..三次さんですか？..そんな無理です、許してください！

辰二..あれもだめこれもだめじゃ、らちが明かねえ！無理やりにも
奪うしかねえな！？三次！

三次..へい！

お春..やめてください！！

藤兵衛..よさねえか！

藤兵衛が投げた すげの笠が三次の頭にぶつかる

三次..いて！

辰二..なんだてめえ、老いぼれには関係のねえ話だ。すっこんでろ！

三次..笠なんて投げやがつて、年よりの冷や水って言葉を
しらねえのか！？

藤兵衛..山賊が偉そうな口を聞くんじゃねえや、痩せても枯れても

観音の藤兵衛…まだ腕は落ちちやいねえ…相手になるぜ？

三次…けっ！観音だか、あんどんだかしらねえがな…

辰二…待て！…観音の藤兵衛？くそ、相手が悪い！三次ここは
ずらかるぞ！

三次…え？だつて兄貴、あんな老いぼれ…

辰二…いいから！いくぞ！

辰二と三次は一目散に逃げる

藤兵衛…ふう、足を洗ってしばらく経つがまだ俺の事を
知っているやつがいるようだな。

お豊がやってくる

お豊…お前さん大丈夫かい？

藤兵衛…ああ、逃げていきやがった心配いらねえよ

お豊…よかった。…お嬢さん、ケガはありませんか？

お春…すみません、おかげで助かりました…

お豊…おや、この方目が不自由なようだよ。それに酷い火傷だ…

顔を背けるお春

藤兵衛…なんでこんなところで一人旅なんかしてたんだい。

お豊…今の人たちは？ 山賊のようだったけど、知り合いなのかい？

お春…さつきの人達は、龍神一家の辰二さんと三次さんです、
知り合いというか…その…

藤兵衛…どうやら仔細がありそうだな、どうだい、
ゆつくりでかまわねえから、話してみな。
力になれるかもしれねえからな

お春…はい、ありがとうございます。

藤兵衛…俺は、観音の藤兵衛つてもんだ、昔は渡世人をやっていたが、今は隠居の身、女房のお豊と物見遊山の旅の途中だ。

お豊…お豊です、よろしくね。お嬢さんのお名前は？

お春…お春です、越前生まれのお春と申します。

お豊…まあ、越前だなんて…随分遠いところじゃありませんか

お春…実は…三年前のことになります。私には親代わりに育ててくれたお秋という名の姉さんがいるんです

舞台後方にイメージとしてお秋が通り過ぎて微笑む

藤兵衛…わかった、おめえさんが春生まれで、姉さんが秋生まれなんだな

お春…ええ、そうなんです。私たち姉妹は、さつきも話に出た龍神一家にいろいろとお世話をしてもらっていて、とても助かっていました…でもやはり裏があつたようです…

藤兵衛…何かあつたのかい？

お春…親分さんが姉さんのいない間に、私を自分の女にしようと
おそつてきたんです。

お豊…まあ…

お春…それで姉さんは私を守るため、親分さんを殺してしまつたんです

藤兵衛…：何てこつた

お春…凶状旅に姉さんが出たのが三年前…私はずっと姉さんを
待っていました…土地の人たちも、龍神一家のお若い衆から
守ってくれて…そんな時、草鞋を脱いだ旅人さん流れの宗太さんと
出会つたんです。

舞台後方イメージで宗太 通り過ぎて微笑む

お豊..流れの宗太さん？

お春..初めて好きになった人です..夫婦になろうとも言われて..
お豊..まあ..良かったじゃない

藤兵衛..ああ、姉さんも安心だろう

お春..でも、このままじゃいけない、そのためにお金を稼ぐといって
宗太さん江戸に旅立ちました。

藤兵衛..江戸は八百八町、稼ぐにはもってこいだからな..

お春..それが二年前のことになります。そして一年前..

いくら探しても姉さんを見つけられなかったことへの
腹いせか、龍神一家の人たちが私の家に火をつけたんです..

お豊..そんな..

お春..顔に火傷を負ってしまい、火の粉も目に入り、一寸先も見えない
盲の体になってしまいました、闇の世界をさまよううちに、
心細くなってきた、姉さんに会いたい、宗太さんに会いたいと
杖を頼りに越前を出て..今日まで旅をしてきました..

お豊..ううう、なんて可哀相な..ひどいね!その龍神一家ってのはさ
だからあたしはやくざものが嫌いなんだよ

藤兵衛..俺も元ヤクザだから耳が痛えやな..:なあ、お春さん

よかつたら俺達と一緒に旅をしねえか？

お春..え、でも..

お豊..そうね、一人じゃ何かと心細いでしょ？

藤兵衛..俺たちは別に急ぎの旅でもねえ、三人で旅をしたほうが

姉さんのお秋さんや宗太さんだっけか？
早くみつけられるかもしれねえ

お春..いいんでしょうか、ありがとうございます。

お豊..さあ、それじゃあ今夜は旅籠に泊まってゆっくりしましょうね

お春…本当にすみません、藤兵衛さん、お豊さん…ありがとうございます
 藤兵衛…さあ、お春さん、お豊、おれについてきな。

三人がはける 今度はお秋がその峠にくる

宗太…ねえさーん、お秋ねえさーん、ねえさーん！

お秋…うるっさいね！何だいさつきから姉さん姉さんて。姉さん
 売って歩いてるわけじゃないんだよ！？

宗太…なあ、頼むよ。俺と一緒にしてくれ！

お秋…あんたねえ、呑み過ぎたんじゃないのかい？何が一緒になって
 くれだよ。馬鹿なこと言ってるんで、どっかへおいきよ

宗太…俺、本気なんだ！ あんたに会えて目が覚めた、生まれ変わった
 つもりでやり直したいって思ってる…

お秋…あつそ、いいんじゃないの？頑張んなさいな

宗太…あんたのそばで、やり直したいんだ。まっすぐな人柄、
 家族を思うその気持ち、俺はあんたに惚れちゃまった…
 強がっていてもたった一人で凶状旅なんて心細いに決まってる、
 俺が支えてやりてえんだ、頼むよ俺の女房になっしてくれ！

お秋は何もいわず、山道の傍らにさいている
 水仙の花を見つめる

宗太…：お秋さん？

お秋…女房になっしてくれて…あたしが、そんな甘い言葉で靡くと
 思ったのかい？ 人を殺して、終わらない旅を続けて、
 いつ追っ手が来るかもわからない、この水仙の花みたいに
 ずーっとうつ向いてる。表通りを歩く事なんかできやしない
 これから先、ずっと、ずっとずっと裏通りで生きて行くんだ
 あたしに惚れただ？…冗談や、からかいならやめておくれよ！

宗太…冗談なんかじゃねえや！ あんたが裏通りあるくなら

俺だっぺ一緒にあるいてやる、うつ向いている水仙なら
俺が笑わせてやる…あんただっぺ、幸せになっても
いいはずだ…俺と一緒に生きてくれねえか？
お秋…
…

風が吹いてお秋は振り返る

暗転

三景目

前幕より一年の経過

清水の旅籠屋 清水屋へつく

藤兵衛…足元気をつけるんだぜ…

お春…はい、ありがとうございます。

お豊…お前さん、ここかい？ 遠州じゃ有名な旅籠屋清水屋さんてのは

藤兵衛…ああ、とてもいい旅籠屋で有名だそうだ。今夜はここでゆつくり
しようじゃねえか

お春…藤兵衛さん、お豊さんいつもすみません…

お豊…何言ってるの、お春さんと出会ってもう1年になるんだよ？
今さら遠慮なんてしないでおくれよ

藤兵衛…そうさ、せめて越前に戻るまでは一緒に旅を続けていくぜ

お春…ありがとうございます。

藤兵衛…ごめんよー、邪魔するぜ

お千代…はい、いらっしやいませ！

奥から若旦那の宝二郎と若女将のお千代がやってくる

宝二郎…清水屋へようこそ

藤兵衛…三人で泊まりたいんだが、部屋はあるかい？

お千代…ええ、ございますよ。うちは温泉もいいので
ぜひ、楽しんでくださいね！

お豊…あら、いいわねえ。

宝二郎…松の間、竹の間、梅の間とございますが…どこが
よろしいでしょうか？

藤兵衛…それじゃあ、一番上等な松の間をお願いできるかい？

お千代…かしこまりました、それではその宿帳にお名前を…

女中がやってくる

女中…ちよつと困りますよ！ 松の間は今うまつてますから！

すみませんねえ、お客様…竹の間か梅の間でよろしいでしょうか？

お豊…ええ、かまいません。それじゃあ竹の間でお願いします。

お千代…すみません、うつかりしてまして

女中…いえいえ、いいんですよ。若奥様は嫁いだばかりで、いろいろと

覚えることもたくさんですからね。わからない事があったら

この女中頭のお豊にお任せください！

藤兵衛…おや、女中さん名前をお豊っていうのかい？

女中…ええ、そうです！

藤兵衛…うちの女房と同じ名前だ

宝二郎…そうなんですか？

お豊…ええ、お豊っていうんですよ

女中…あらー、すごい偶然！いいですねえ！お豊って名前に悪い人間は

おりません！お客様、いい奥様みつけましたね！！

藤兵衛…ありがとよ。じゃあ竹の間に案内してくれるかい？

お千代…かしこまりました、お部屋のご用意をいたしますので少々

お待ちくださいませ

宝二郎…いいよお千代さん、お部屋の支度なた私がやるから…

お千代…いえ、宝二郎さん…私がやります

宝二郎…何言ってるんだい、私がするって…

お千代…いえ私が…

女中…いちやつくのやめてもらっていいですかね!?

宝二郎…ああ、すまない。じゃあ、二人で行こうか?

お千代…はい!

宝二郎とお千代 仲良く奥へ

お豊…仲のいい新婚さんなんですネ

女中…ほんとにすみませんね見苦しいところを

藤兵衛…とんでもねえ、ほがらかな気持ちになりますさあ

女中…松の間のご夫婦も、うちの若夫婦も、ほんとに見苦しいったらありやしない! ったく、大体なんであたしが独り身で…

ぶつぶつ文句をいう女中

お豊…お前さん、先に温泉にはいつてきたらどうだい?

藤兵衛…そうだな、女中さん案内してくれるかい?

お豊…ええ、どうぞ。こちらでございます。

藤兵衛は女中に案内され、奥に入っていく

お豊とお春は、旅支度を外し、腰を落ち着けます。

お豊…お春さん、体は大丈夫ですか?

お春…大丈夫です、いつもすみません…

お豊…もう、謝ってばかりね…私たちの方こそ、
あなたには癒されていますよ

お春…あの、お願いがあるんですけど、いいでしょうか?

お豊：改まってなんだい？

お春：私、一緒に旅をしてきて：藤兵衛さんやお豊さんのこと、まるで
おっかさんやおとつあんのように思ってるんです：
もし迷惑じゃなかったら、おっかさんって呼んでもいいですか？

お豊：：なんていじらしいことを：

お春：だめでしょうか？

お豊：ダメなわけないでしょ！：ありがとう、私もね。

あなたのことを娘の様に思っていますよそれじゃあ、
おっかさんと呼んでくれるかい？

お春：：お、おっかさん：

お豊：お春。

お春：おっかさん！

二人は抱きしめ合い

宝二郎：あの：お部屋のご用意ができました。

お豊：あ、すみませんありがとうございます。

お千代：お食事はお風呂のあとでよろしいですか？

お豊：はい、お願いします。

宝二郎：清水の魚は美味しいので、楽しんでくださいね

お春：ありがとうございます。

お豊：さ、ゆっくりしたら私たちも温泉に入りましょうか？

お春：はい、いきましようおっかさん。

お千代：こちらです

お豊たちがお千代に案内されて部屋に行く

宝二郎…親子旅か…いいもんだなあ

女中がやってくる

女中…若旦那様、竹の間のお客様は？

宝二郎…今お千代さんが案内してくれたよ

女中…かしこまりました、そうそう行灯の油が切れそうなんです
ちよつと行つてきてくれませんか？

宝二郎…私がいくのかい？

女中…若旦那様、私は女中頭ですよ？他にもやるものがたくさん
あるんです。少しくらい手伝つてくれてもいいじゃありませんか

宝二郎…わかったよ、まったくどっちが奉公人かわかりやしないね
ところで、お父つつあんやおつかさんは？

女中…旦那様は掛け取りに行かれてますし、女将さんは甘味処で
大福でも食べてるんじゃないですかね

宝二郎…おつかさんは相変わらずだな…じゃあ、油屋さんについてくるよ

女中…はい。お願いします。いつてらっしゃいませー

宝二郎が裏口から出ていく

藤兵衛が風呂からあがる

藤兵衛…はあ…いい湯だったな。お、女中さん。ここの温泉、
格別だったぜ

女中…ありがとうございます！

藤兵衛…湯上りに一杯のみてえから支度してくんな。

女中…かしこまりました。

女中、お酒とつまみをもつてくると隣にすわる

藤兵衛…ありがとよ、それにしても…清水屋さんと言えば老舗だ
日にち毎日、いろいろな客がくるんだらうな

女中…そうですね、お客様はうちの旅籠に癒しを求めてきますから
最後は皆さん笑顔で帰られます、その笑顔を見るのが
我々の宝なんです。

藤兵衛…確かにな…やっぱり笑顔が一番だ、あんまり大きな声じゃ

言えねえが俺は昔、渡世人だよ。…女房には長い年月
苦労かけちまって…この度は女房孝行のつもりなのさ

女中…まあ、いいじゃありませんか！渡世人！素敵です！

藤兵衛…そうかい？

女中…ええ！私も渡世人の旅人さんに恋い焦がれたこともありましてね？
ききます？

藤兵衛…いや、結構だ。

女中…あら、そうですか？ でもいいですねえ、娘さんとの親子旅

藤兵衛…ああ、あの娘さんは他人なんだよ、でもまあ、縁あって
一緒に旅をして一年だが…不思議なもので
本当の娘のように思ってるよ

女中…そりやそうですよ、だって人の縁も、仕事も、心も

全て長い年月で、実っていくんですから

藤兵衛…ああ、そうだな…

女中…あ、桃栗三年柿八年♪柚子は九年の花盛り、枇杷は九年で
成りかねる♪梅はすいすい十三年♪すいすい泳げや清水の海を
はい、すーいすい♪ってね

女中 歌い踊り出す。※オリジナルの若城音頭

藤兵衛…おめえさん、おもしれえお人だね

女中…ふふふ、良く言われます！

宗太…お世話になりやした！

奥から宗太とお秋がやってくる

お秋…ちよいと、あんたいい加減にしなさいよ？いつも勘定はあたしが払ってばかりじゃないか

宗太…仕方ねえだろ、金ねえんだから

お秋…まったくもう

女中…ありがとうございます、ご出立ですか

お秋…はい、お世話になりました。

支払いをするお秋

女中…清水屋はいかがでしたか？

宗太…風呂も食事も最高でした、また遠州にきたときは、泊まらせておくんない

女中…もちろんです。お待ちしてますね！

お千代の声が奥から聞こえる

お千代…すみませーん、水が止まらないんですけどー

女中…えー？もう、若奥様何やってるんですかー

女中奥へ行く

女中が奥に入ると、お秋は宗太に手を差し出す。

お秋…お前さん、手ひいておくれよ

宗太…何いってんだよ。一人で歩けるだろ

お秋…いやだよ、疲れたから手ひいて

宗太…あのなあ、今旅籠で休んだばかりなんだから。疲れる訳ねえだろ…
 ったく、ま、別にいいけどな。ほら、これでいいか？

宗太はお秋の手を握り、二人はにこやかに旅籠を後にする
 お酒を飲みながら、その様子を見ている藤兵衛。いつのまにか、
 お豊もそばにきている

藤兵衛…若いつてのはいいもんだねえ。

お豊…そうだねえ。

藤兵衛…びっくりした、いたのか

お豊…お前さん、お春さんは疲れたようで先に休んでますよ。

藤兵衛…そうか、今回は長旅だったからなあ。それにしてもよ

あの二人連れの女の方、どことなくお春さんに
 似てねえか？

お豊…言われてみれば確かに…

藤兵衛…いやあ、似てるなあ

お豊…似てるねえ

藤兵衛…見れば見るほど、よく似てらあ…

二人は顔を見合わせながら、後ろ姿を見送る

四景目

雪がふっている 宗太とお秋入り 中央辻堂

宗太..おい、どうした？ずいぶんと落ち着かねえじゃねえか

お秋..もうすぐ、あたしの故郷だからね..懐かしくもあるが、追手が来るんじゃないかって気持ちもあるのさ。

宗太..心配すんな、俺がついてるんだからよ

お秋..:うん、そうだね、

宗太..それにしても、ずいぶん冷えるなあ..

お秋..ほんと、今年は一段と寒いよ。

宗太..ところでよ、おめえの故郷ってのは..おい、そんなに心配なのか大丈夫だって、俺がついてるんだ。必ずおめえのことは守ってやるだから、俯くなって..それじゃあ、水仙みたいだぞ？

お秋..そうだね、何があったってお前さんがそばにいてくれるんだもん

宗太..ああ、俺はおめえの亭主だからな

お秋..ねえ、お前さん。故郷にいったら妹に会ってくれるかい？

宗太..当たり前だろ、だが..急にやってきて、姉ちゃんの亭主ですなんて驚きやしねえかな？

お秋..ビックリするだろうけど、きっとすぐに仲良くなれるさ
だって、あたしが選んだお前さんと、あたしの大事な妹なんだから

宗太..そうだな、お前の妹なら俺の妹も同じことだからな。

お秋..ふふ..:そうだね。さあ、先を急ごう？

宗太..おう。あ、それでおめえの故郷ってのは..

辰二と三次が道をふさぐ

辰二.. やつと見つけたぞ！お秋！

三次.. 親分の仇だ！覚悟しやがれ！

お秋.. 竜神一家の辰二に三次！待ち伏せしてたつてのかい！？

宗太.. おい、お秋、こいつらは…

辰二.. 久方ぶりに帰ってきたと思ったら男連れか、いい気なもんだな

宗太.. なんだと！

お秋.. お前さん！ここはあたしに任せておくれ！

宗太.. いいや、ここは俺が相手になってやらあ！

三次.. 上等じゃねえか、二人まとめてぶつ殺してやる！

お秋.. お前さん、この辻堂に入っておくれ！

宗太.. え？

お秋.. いいから！

辰二.. なんだあ？！かくれんぼしてんじゃねえぞ！！

いわれるがままに、辻堂に入りしやがみ込む宗太

宗太.. おい、お秋！？

お秋.. ねえ、覚えてるかい？ 三つの約束…二つ目のお願いだ…

何でも言う事聞いてくれるって、約束したよね？

宗太.. 何もこんな時に言わなくたっていいだろ

お秋.. こんな時だから言うんじゃないか！いいかい、あたしが

三つ数える間、決して辻堂からでてくるんじゃないよ？

三次…何をわけのわかんねえこといつてやがるんだ！

お秋…一つ！

宗太…おい！お秋！！

間合いをとりながら、辰二と三次の様子を伺うお秋

お秋…二つ！

辰二…いいからドスを抜け！

お秋…うるさいね！ そんなに相手をしてほしけりやあ…

ここじゃあ、場所が悪い…あたしの故郷越前岬までついといで！
三つ！

刀を抜いて、辰二の刀を受け止める

お秋…これはあたしのけじめなんだ、宗太さんを巻き込むわけには
いきやあしない…

お秋 はげ。

辰二…ちくしょう！

三次…待ちやがれ！

辰二・三次も後をおつてはげ

宗太辻堂から飛び出す。

宗太…お秋！…そんな、嘘だろ。何てこった…

お前もお春と同じ越前の生まれだったのか！

宗太 追いかける

五景目

藤兵衛夫婦とお春 入り

藤兵衛…足元気をつけるよ…こいつあ、ずいぶんと吹雪いているな…

お春…あの…どこかに大きな岩は見えませんか？

お豊…大きな岩？ あ、お前さん、あれじゃないかい？

藤兵衛…ああ、見えた、あるぜ大きな岩が

お春…良かった、それじゃあもうここは越前岬ですよ。

お豊…まあ、ここがそうなのね。

お春…そうです、私や姉さんが生まれ育った場所、越前岬です。

藤兵衛…そうか、通りで体の芯まで冷え込んでくらあ…

お春…おとつつあん、おつかさんここまで一緒に旅をしてくれて
本当にありがとうございます。

藤兵衛…何いってんだ、礼をいうなら俺たちの方さ、なあ？

お豊…ええ、親子旅ができるのも、お春のおかげなんだからね

藤兵衛…でもよう、このまま旅を終わらせちまってもいいのかい？

お豊…そうだよ、私たちはこのままお春と一緒に旅をしたっていいし
上州に帰ったっていいんだよ。

お春…ありがとう…でもね、姉さんが帰ったときに、私がいなくて
姉さんきつと驚くと思うんです。お秋姉さんは、たった一人の
私の大事な姉さんだから…

藤兵衛…そうかい、じゃあかまやしねえ。姉さんや宗太さんが戻るまで
俺達もそばにいてやろうじゃねえか

お春…そんな！申し訳ないです…
藤兵衛…何いってんだ、俺達は親子だろ？

お豊…そうそう可愛い娘を守るのが親の務めですから、ね、お前さん

藤兵衛…ああ、その通りだ

お春…：そんな、本当にすみません。ありがとうございます

影の声

辰二…まちやがれー！！

三次…逃がさねえぞ！

お春…きゃあ！何ですか！？

お豊…何のさわぎだい！？

藤兵衛…ここは俺に任せておめえたちはあっちへいってな！

藤兵衛に促され、はけるお豊とお春

藤兵衛…でてくるんじゃねえぞ！？

お秋 入り 走り込んでくる

藤兵衛…どうした？何かあったのかい！？

お秋…追われておりまして…

藤兵衛…わかった、俺も助太刀するぜ！

辰二と三次はたどり着き、切っ先をお秋にむけます。

辰二…もう逃がさねえからな！？

三次…往生際が悪いぞ！

お秋…あんたらみたいいな下種野郎に負けるもんか！

辰二…なんだと！…ん？

三次…兄貴！観音の藤兵衛だ！

藤兵衛…いかにも俺が観音の藤兵衛だが？ てめえら、まだ
こんなことしてやがるのか？

辰二…うるせえええ！二人まとめてたたっ切ってやらあ！！

三次！いくぜ！

三次…おう！

殺陣 辰二と三次が切られる。

お秋…：もし、そこのお方ありがとうございます。

藤兵衛…怪我はねえか？ん？あれ、おめえさん、遠州の清水屋に
泊まってなかったか？

お秋…清水屋…ああ、はい！泊まりました！

藤兵衛…やっぱり、俺も泊まってたんだよ。どこかで見た顔だと
思ってたんだ。

お秋…そうだったんですか…あ申し遅れました、
あたしはこの越前の生まれでお秋といいます。
よろしくお願いします。

藤兵衛…お秋！？ あんたがそうなのかい、…ちよいとまってなよ！

お秋…え？あの…

藤兵衛…おーいお豊！お春さん！

お豊とお春の入り。

お秋…お春！？

お春…姉さん！帰って来てくれたのね！…無事でよかった。

姉妹は抱きしめ合い

お秋..お春..その火傷どうしたの！？それに、目も見えないで..

お豊..親分の仇だと悪い奴らに、火をつけられたそうなんですよ。

かわいそうに..それで火の粉が目に入って..

お秋..そうだったの、かわいそうに。もう大丈夫よ..姉さん、もうどこにも行かないからね。

お春..藤兵衛さんやお豊さんに長い間ずっとお世話になっていたの
まるで本当のおとつつあんやおつかさんみたいに..

お秋..そう、本当に妹をありがとうございました。

藤兵衛..とんでもねえ、俺達の方こそ癒しをもらってるよ

お春..あのね、姉さん..実は、姉さんに会ってもらいたい人がいるの

お秋..？

お春..私ね、好きな人ができたのよ..今は旅に出ているけど、
私と夫婦になろうって約束してくれた、優しくとても
素敵な人なの。

お秋..あらまだまだ子供だと思っていたら、そんな良い人ができたのね
..そっかあ、姉さんすごく嬉しいよ。大事なお春を守ってくれる
良い人ができたなんて..

お春..ありがとうございます..

お秋..あ、でもね、実は姉さんも所帯をもったんだよ。

お春..しよたい？

お秋..亭主もらったの、すごく優しくて便りになるとてもいい男なんだ
お春に会ってもらいたくて

お春..ええ、私も姉さんの旦那さんに早く会いたいわ。

宗太の入り

宗太…おーい、ハアハア…無事か!?
 お秋…お前さん!大丈夫だよ、あたしが負けるわけないだろ?

宗太…そうか、無事でよかった…お春?

お春…その声は宗太さん!?ああ…宗太さん、帰って来てくれたのね
 杖を捨て、声のする方へと駆け寄るお春、その時、雪で足を
 滑らせてしまい宗太は体を抱きとめる

宗太…:

お春…よかった…無事に帰ってきてくれて、姉さん、さっき話していた
 でしょ? 姉さんに会ってもらいたかった人…

お秋…この人がそうなのかい?

お春…うん、流れの宗太さんっていうの。

お秋…よかったね、旅から帰って来てくれたんだ。良い人そうじゃない
 はじめまして、お春の姉でお秋といいます。妹のこと、
 よろしくお願いします。

宗太…:お秋?

お秋…そう、お秋っていうんです。お春は春に生まれたから、あたしは
 秋に生まれたから…

お秋は、人差し指を口にもっていき、首を横にふる

宗太…さようで、あつしは流れの宗太と申します…

藤兵衛に促され、お豊はお春のそばにいくと、
 そつと耳を手で覆いました。

お春…なあに?

お豊…お春ちゃん。雪が横降りになってきたからね…耳に入らないように
 おさえてあげますよ。

お春..ありがとうおつかさん。そう、雪が強くなってきたのね..

宗太..お秋！聞いてくれ！

お秋..聞いて..

宗太..:

お秋..:最後の願いきめたよ。あたしと過ごした一年間のことは全てなかったことにしておくんさい。

宗太..なかったことって..:そんな簡単にいうなよ！

言っただろ、お前が裏道歩くなら、俺も一緒に歩くって
うっ向いてる水仙なら、俺が支えになってやるって..:

全部なかったことになるのか！？お前はそれでいいのかよ！

お秋..水仙はね、一度植えたら何もしなくても咲き続けるんだよ

あたしは一人であって生きていける..:

宗太..お秋..:

お秋..いいね、何もかも..:すべてなかったことにするんだ。約束だよ

宗太..:

お秋はお春に近づく、耳を抑えていた手を離すお豊

お秋..お春、ごめんね..:実は姉さん、また旅に出なくちゃいけないの。

お春..:どうして、帰ってきたばかりなのに..:

お秋..:また、人を殺めちゃったんだよ。それも二人も..:悪い事したら

その罪は償わなくちゃいけない..:だからね、旅に出なくちゃ
いけないの。

お春..いやよ、そんなのいや！ やっと会えたのに、これからもずっと

ずっと姉さんと一緒にいたい、旅に出るなんて言わないで

もう嫌なの！真っ暗な中、たった一人で、待ち続けるのはいや！

お願いよ、いかないで、あたしを一人にしないで！

お秋.. 何いってんの、一人じゃないでしょ！宗太さんがいるじゃない
あんたのことを誰よりも一番思ってくれる、支えてくれる人が
いるんだから：大丈夫、あんたは強いよ。だって、姉さんの
自慢の妹だもん。

お春.. 姉さん：

お秋.. お春を、よろしくお願いします：

風が強くなり 宗太の前をお秋は通り過ぎる。

お春.. 誰か、泣いてるの？

お豊.. 風の音だよ。

藤兵衛.. ああ、越前岬のまるで誰かが泣いているような冷たい風の音だ。

風の音に紛れ女の泣き声 暗転

